

平成21年度石川大学コンソーシアム地域貢献活動報告

市民野外美術展「アートみらい2009」

- 「かもママ親子ファッションショー」企画・設営・運営 -

学生団体名：キケンタマゴ（金沢美術工芸大学）

参加学生：小園美宇紀・山脇ももよ（環境デザイン専攻4年）

浅田洋一・岩切翔成・中曽根知弘・平松麻里乃・本間愛子（同2年）

稲角明子・寺田 繭・宮川実穂・山崎春奈・山本千加（同1年）

1. 地域活動の概要

アートとふれあう市民祭りである市民野外美術展「アートみらい2009」（加賀市）へ参加し、「かもママ親子ファッションショー」舞台の企画・立案・設営・演出を行いました。NPO法人「かもママ」は2002年に発足した加賀市を拠点に地域の子育て環境の向上に努めている民間非営利団体です。母親の代役と



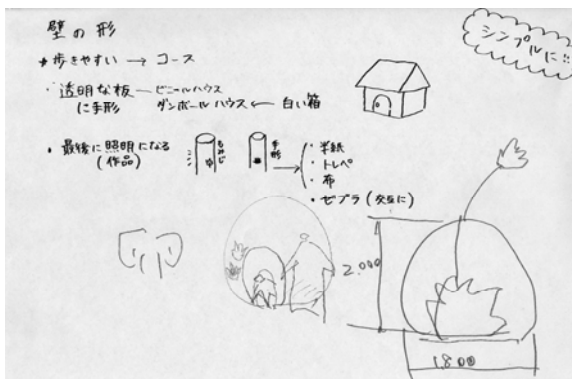
して子育てをサポートしながら、親自身の子育て力をアップしていくように見守り、時にはアドバイスもしています。その団体がリメイクファッションを使って2年前から行っている親子ファッションショーにコラボレーションし、舞台装置のデザインと制作、さらにはファッションショーの運営も行いました。

2. 地域活動の具体的な内容

- 4月5日 市民野外美術展「アートみらい2009」実行委員会（加賀市役所地域振興部）から連絡があり上記の活動参加を打診される
- 6月 石川大学コンソーシアム地域貢献型学生プロジェクトに応募
- 7月 採択決定
- 7月10日 加賀市役所地域振興部との打ち合わせ（NPO 法人「かもママ」（以下「かもママ」）とのコラボレーション検討）
- 7月14日 「かもママ」との打ち合わせ
「かもママ」のスタッフと活動主旨やファッションショーの概要について説明を受ける。
- 8月14日 「かもママ」との打ち合わせ
親子とのつながりやかわいらしさ、子供の生まれる、「かもママ」、「キケンタマゴ」から卵をモチーフにすることがほぼ決まる。
- 9月24日 「かもママ」との打ち合わせ、現地視察、学内打ち合わせ
ファッションショーの内容について提案し、意見調整、今後の方向性を決める。



- 10月3, 4日 現地視察、担当者打ち合わせ
舞台設営業者との打ち合わせを行い、舞台上の動線や設置物の位置関係を確認する。
- 10月12 - 23日 学内打ち合わせ、詳細検討、制作および現地視察、設営



10月24日 ファッションショー設営および運営

現地にてステージを設営し、演出（音楽・誘導・表彰）等の運営を行った。



3. 地域活動の評価

今回のショーの企画・運営では、学生ならではの独創的なアイデアや斬新な企画がひかり、また、楽しさが伝わる演出ができ、関係者の方々にはたいへん喜んでいただきました。

企画ではアートフェスティバル全体のキーワードにもなっていた「つながる」をキーワードに親子のつなぐ手と手をイメージして、また季節感を出すために楓の紅葉を小道具に使いました。出演者の自然な演技を促すため、バスケットに入れた楓の紅葉をステージ一杯にまき散らしながら歩く演出としました。まかれた楓の紅葉は、あたかもひよこの足跡のように、こどもの歩いた後に道のように残されます。また、こども達には楓の紅葉の色や感触を楽しんでもらい、自然と人とのつながりを体感してほしいという願いが込められています。

また、「かもママ」やこどもが「生まれる」形として卵をイメージして、こども達がステージに設置した大きな卵を通して生まれ出る演出を加えました。(サークル名「キケンタマゴ」ともイメージを重ねています。)卵の中の黄身を表現するために黄色の布を使用し、外側は和紙を貼り、こども達が入りたくなる暖かい卵ができました。ちなみに、楓の紅葉を集めるために、学生達はかなり苦勞をしたようです。

それぞれの出演者の好みの音楽をメールで事前に聞き出しておいてCDに録音し、ファッションショー当日は音楽にあわせてこども達が楽しそうに演技をできるようにしました。また、今回はワークショップを行うことはできませんでしたが、出演者が楓の紅葉をまいたり、卵の中を通ることで、出演者による参加型の演技構成としました。

これらのきめ細やかな配慮と演出によって、こども達はたいへんリラックスして楽しんでくれました。卵に入り、紅葉を撒くことで、最初は緊張していたこども達も自然と笑顔になっていました。昨年のファッションショーでは、はずかしがってステージを走り出してしまうこどももいたようですが、紅葉を撒くことでのびのびと歩いていましたし、また、お母さん達も一緒に楽しんでいたように思います。

4. 今後、この地域活動を継続、活発化していくために必要なもの、および課題

学生はかなり忙しく、本学では特に課題の制作が重なると、課外授業はほとんどできないのが実情です。その中で、モチベーションを保つとすれば、①授業課題として単位を与える、②アルバイトと割り切ってお金を支払う、③やりがいのある内容の課題をつくり上げる、のどれかに当てはまらない限り、難しいと考えられます。③がベストの選択ですが、①、②をうまく使いながら学ばせる方法を講じていく必要があると考えます。

学生は、瞬発力がありますが、今回のプロジェクトは課外授業であり、モチベーションを高めたり、それを維持することが難しいと感じました。今後は、学生の想像力・創造力を引き出すような課題を設定することが重要だと思います。そのためには、今回のプロジェクトに限って言えば、企画の段階から、例えば、まつりの運営会議の段階から参加できるとよいと感じました。

また、地域とのコラボレーションについて、金沢の大学と加賀市のまつり実行委員会やNPOとの連携であり、距離感が常に課題だと感じました。車で片道1時間程度の距離ですが、回数が重なると時間等の負担も多く、はじめの段階で予定していた親子が参加しての舞台装置の制作は省略せざるを得ませんでした。

5. その他

参加者からは、こども達も恥ずかしがらずにステージに出ることができ、また、たいへん楽しかったとの感想をいただき、またNPO法人「かもママ」からはお礼の手紙と共にファッションショーのことを掲載した機関誌を送られてきました。

今回の企画・制作・演出を通じた交流により、学生たちがつくったものを只単に見てもらうだけでなく、実際に使ってもらい、その表情やいただいた感想等から学ぶことが多く、貴重な体験をすることができました。今後も、何らかの形でご協力させていただければ、と考えております。